

添加(テンカ)ある物に何かをつけ加える。

添える。

×[×]甜菜(テンサイ)甜は舌に甘^{した}く感^{あま}ずる意。甘

い野菜の意で、砂糖大根とも言う。根

の汁^{しる}から砂糖が取れる。

添削(テンサク)添えるのと、削るのと。文

章や答案などで、足りない部分は書

き加え、よけいな部分は削って、良い

ものにする。

×[×]篆書(テンシヨ)漢字の書体の一種。楷書^{カイシヨ}・

隷書^{レイシヨ}のもとになったもので、大篆と小

篆とある。今でも実印などに使われて

いる。

×[×]恬淡(テント)恬は心のどかなこと。あっ

さり(淡白)としていて、ものに執着し

ない様を言う。

×[×]天誅(テンチュウ)誅は責^せめとがめるのが

本義で、処罰(極刑を含む)すること。

天罰の意。

×[×]奠都(テント)都を定めること。奠は神前に

酒を供えるのが本義。神意によって

大事を定めるの意。

×[×]伝播(デンパ)播^ハは種をばらまくこと。電波

の広がり伝わることを言う。

天竺(テンジク)

インドのことを呼ぶ古い言い方である。また、“高い空”の意味にも使われた。ヨーロッ

パ人の渡来後は、遠い外国から来たものには、それに天竺の名を添えて呼んだものが多

い。たとえば、ダリヤのことを“天竺牡丹”、モルモットのことを“天竺鼠”と名づけたのなど

実にみごとであり、おもしろいではないか。ほかに、“天竺葵”“天竺木綿”などのことばが

ある。

しかし、“天竺味噌”というのは、「唐(中国の呼び名)すぎる(辛すぎる)」のしゃれで、辛

子を入れたみそに、唐より遠い国の天竺をつけたものである。これまた、みごとな名づけ

方ではないか。“天竺浪人”とは、青い目の浮浪者かと思うかもしれないが、単なる浮浪者

にすぎない。家を逐電(逃げ出すこと)した、つまり“逐電浪人”を逆にして、“天竺浪人”と

したものである。